

## 2024年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	筑波大学 人文社会科学研究群 国際日本研究学位プログラム	職名	博士後期課程	助成 金額	500,000円
氏名	大槻薫子				
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
外国人介護人材の日本語教育支援に関する研究：施設利用者と介護職員間の日本語コミュニケーション場面の分析をもとに					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<b>背景と本研究の概要</b> 国内の介護分野では人材不足が課題となって久しい。この課題を解決する一つに外国人介護人材の受け入れがあるが外国人介護人材を受け入れる介護施設では、日本語によるコミュニケーションの不安が課題となっている。本研究は、外国人介護人材を受け入れている介護施設に注目し、現場のリアルな日本語でのコミュニケーションを解明することで、日本語教育の視点から外国人介護人材にどのような支援が必要であるのかを探るものである。本研究では、申請時に以下の3つを計画した。（※本研究の外国人介護人材は技能実習生を指す。）（1）日本人職員に実習生のコミュニケーションについてインタビューを実施。その分析を精査し論文として発表。（2）実際の日本人職員と利用者間のコミュニケーションをデータ収集し、どのような会話がなされているのか、その特徴をあぶりだす（本助成金外で行う、実習生と利用者間のコミュニケーションの特徴と比較するための重要な分析となる）。（3）計画2から現場で求められるコミュニケーションを検討する。					
<b>助成金の使用実績</b> <b>【謝礼】</b> 協力施設に従事する職員にデータ収集を依頼したお礼として謝礼金を渡している。 <b>【出張費】</b> まず、計画1の論文執筆および投稿のために精査した分析結果から、実習生に対しての言語不安は実習年数によって解消されるものもあるが、実習年数に関係なく意思疎通に不安が残るという結論が得られた。したがって、当初計画にはなかったが実習生らが来日前に教育を受ける送り出し機関では、日本語の授業の中で意思疎通を図る練習が行われているのかを把握するため現地視察を行う必要があった。それにかかる出張費および学会参加費用に使用。 <b>【書籍および文献取り寄せ】</b> 主に介護分野に関わる書籍や介護分野・外国人介護人材に関わる文献を取り寄せた。 <b>【学会年会費】</b> 学会での発表および論文投稿のため、年会費として支払いをしている。 <b>【外部依頼】</b> 収集したデータについては、より精密な分析を要するため、専門家による文字化を依頼している。					
<b>成果と今後の予定</b> 本研究の計画1でまとめた結果は論文化された。この結果から、当初の計画を若干変更し実習生の母国である現地へ視察を行うことになった。そのため当初の計画から若干遅れが生じているものの、今回の視察で介護施設職員が実習生に求めている日本語のスキルや能力は、現地の送り出し機関では十分に教育されていないことが示唆された。このような背景を踏まえて、現在遂行している「日本人職員と利用者間のコミュニケーションの実際」を分析しその特徴を明らかにすることで、実習期間中の実習生に対しどのような支援が優先され得るのか、また日本人職員が持つべき実習生への心構えを提示していくことができると考える。本研究は、計画②を現在遂行中であり、引き続き分析を進めその成果を学会発表もしくは論文等で公開していく予定である。なお、計画1にかかるインタビュー結果のうち、今回の論文に載らなかった一部分を、新たに論文化する予定である。					
助成金の使用金額及び使途					
データ提供協力者への謝礼（¥13,500）、出張費（¥103,604）、書籍購入および文献の取り寄せ（¥15,464）、学会年会費：手数料含（¥36,495）、資料の文字化（¥97,500）、合計使用金額：¥272,194（残金：¥227,806） ※助成金の残金は、上記研究内容の発表および論文投稿料として使用することを予定している。					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
大槻薫子（2024）「介護に従事する技能実習生のコミュニケーションの現状と課題—技能実習指導員へのインタビュー調査から—」、『ことば』第45号、現代日本語研究会、pp.129-146. DOI: <a href="https://doi.org/10.20741/kotoba.45.0_129">https://doi.org/10.20741/kotoba.45.0_129</a> なお、日本人職員と利用者間の会話データの分析を現在行っている途中であり、2025年度中に発表もしくは論文にてその成果を公開する予定である。これにかかる費用は、本助成金の残金を使用する予定である。					